

講義名	対)教養特講 (7つの習慣入門)			
担当教員	西尾 範博			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要
この授業は、ステーブーン・R・コヴィー著『7つの習慣』をもとに7つの習慣について学び、次の7点について理解を深め、日常生活で実践し身につけるきっかけを提供することを主題とする。主体性を発揮して物事に対処する、目的をもって日々を過ごす、重要事項を優先する、Win-Winの人間関係を構築する、まず相手を理解するよう努め、その後自分を理解してもらうようにする、思いを認めあい相乗効果を生み出すコミュニケーションをとりあう、肉体的、社会的、知的、精神的側面という4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の再生産を促すこと、このうちを身につけることにより依存的な人間から自立した人間に、を身につけることにより自立した人間同士による相互依存的な関係を築くことのできる人間に成長するとされている。この授業では、社会人になる前の4年間を過ごす大学生にとって日々の生活の充実につながる有意義な学びの連続となることを目指したい。

到達目標
【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいからです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に出席してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には別課室を用意します。

- 第1から第7までの習慣を理解している
- 主体性を発揮して自主・自立の精神を身につけている
- 自ら目的・目標をもって物事に取り組むことができる
- 物事に優先順位をつけて効果的な時間管理を行うとともに重要かつ非緊急な事項を着実に実行することができる
- Win-Winの人間関係を考えることのできる
- 日常生活において、自分の考えや気持ち伝える勇気を持ち、他人の考えや気持ちを尊重してコミュニケーションを円滑にすることができる
- 相乗効果を生み出すことができる
- 人間の4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の再生産を図ることができる

提出課題
毎回の授業の最後に示す課題に関する課題レポートの作成と提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
毎回の授業の最後に示す課題レポートの内容を次の授業時間の冒頭に話題にし、講評または補足説明を行ってフィードバックするとともに、前回の主題に関する理解を深め、次の新しい主題に取り組む基礎となるようにする。

評価の基準
毎回の受講態度（積極性、主体性）と毎回の課題レポートの出来ばえをもとに総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他
担当教員の指示に従って真面目に取り組むこと。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献
授業中に随時プリント資料を配布し、参考文献を適宜紹介する。

- 授業計画**
- 「7つの習慣」の全体概念と主要概念（習慣、人格主義と個性主義、関心の輪と影響の輪）
 - 「7つの習慣」の主要概念（コントロールできることとコントロールできないこと、パラダイム転換1）
 - 「7つの習慣」の主要概念（パラダイム転換2）
 - 「7つの習慣」の主要概念（アウトサイドインとインサイドアウト）
 - 第1の習慣「主体性を発揮する」
 - 第2の習慣「目的をもって始める」
 - 第3の習慣「重要事項を優先する」
 - 第3の習慣「重要事項を優先する」
 - 「私的的成功」（第1～第3の習慣）
 - 第4の習慣「Win-Winを考える」
 - 第5の習慣「重要事項を優先する」
 - 第6の習慣「相乗効果を生み出す」
 - 第7の習慣「刃を研ぐ」
 - 「公的的成功」（第4～第6の習慣）
 - 「私的的成功」と「公的的成功」（全体の振り返り）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
毎回の授業で配布された学修用教材資料の内容を2時間かけて復習するとともに、学んだことを次の授業までに2時間以上かけて日常生活で実践して学びを深めることをもって次の授業に備えることを求める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである「ネアカのびのびへこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力を持った人材、創造力（新し視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持って課題に主体的に取り組む、解決に結びつけることができる人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成することに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業内容を理解するだけでなく日常生活において実践しながら学ぶということの連続となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げることに加え、授業中のディスカッション、グループワークの実施を通じて、学生と教員の間での双方向性を確保しながら進め、その過程で到達目標が一つずつ達成されることに努めたい。

実務経験の有無及び活用

備考
毎回の授業から多くのことを学ぼうとする意欲のみならず、学んだことを自らの日常生活において実践し、役立てようとする姿勢が強く求められる。